

あけまして

新年の
ごあいさつ



神崎町議会議長
野口喜平

新しい時代に向けた町づくり

新年明けましておめでとう
ございます。

皆様におかれましては、健康で希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年9月の定例議会におきまして、議長に就任し、議会の円滑な運営を目指して誠心誠意職務に邁進しております。

さて、国における三位一体改革が真の分権型社会の時代の流れとするならば、地方の財政構造も改めて分権型社会に相応するものとならなければ地域の力は発揮できないと思います。

地方交付税の見直しや、国库補助金の改革、そして地方税財源の移譲という三位一体改革の推進から単に分権改革の名のもとに整理され、地域力の基になった農業・地場産

業・食育の個性あふれる町づくりが決して失われてはなりません。

町の財政は大変厳しい状況を強いられ、大きな変革期にあります。今こそ住民の知恵とパワーを駆使して、小は大を支え、大は小を包み次世代への希望と夢を描くべきだと思います。

自治体が真に自立するには、町民とのさらなる協働と行政改革が必要不可欠であります。このため、町民の皆様が安心してできるまちづくりに向けて、執行部とともに一層努力して参ります。

市町村合併につきましては、新しい合併特例法に基づき第二ステージに入り、昨年11月に県は合併推進構想案を示しました。

構想案で本町は、2市4

町（成田市・富里市・栄町・多古町・芝山町）の組み合わせとなりました。

県の基本的な考えは、真の分権型社会の実現のため、中長期的な視点と、自立性や地域特性を踏まえた中で、生活圈・行政圏を念頭に成田国際空港を中心とした「空港圏合併」を設定し、国際空港都市としての発展と人口23万人で特例市移行も可能としています。

提示された組み合わせの中で、合併に向け、町政の主役は、町民の皆様であり、皆様の幸せを第一に考え、中長期的な視点に立って、その方向性の決断を町執行部と議会が一体となって十分協議を重ね、合併して良かったと思える合併を目指したいと考えております。

これからの地方自治体は自己決定権と自己責任が益々大きくなり、町議会はその最も重要な立法的機能・行政監督機能を充実強化し、今まで以上に行政執行へのチェック機能を向上させ、分権時代に期待される議会の役割を果たしていかなければならないと思っております。

町議会は、新しい時代の議会対応を踏まえ、その構成のあり方を検討し、議員定数を10名とし新たな議会運営を進め、町民の皆様の負託に答えるため、開かれた議会と自ら改革を推し進めながら、最善の努力をしてまいれる所存であります。

どうか本年も町議会活動に對し、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。